

付着生物ラーバ情報

1 ラーバ等の出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ(通称: ハナ)

ラーバは久栗坂で1.1個体/m³見られました(図2)。

(2) キヌマトイガイ(通称: コメガキ)

ラーバは蟹田沖で2.8個体/m³、久栗坂沖で12.8個体/m³、川内沖で50.0個体/m³見られました(図3)。

(3) オベリア類(クラゲの仲間、通称クサ)

クラゲは見られていません(図4)

(4) アミクサ(海藻、通称クサ)

小枝は見られていません(図5)。

(5) マボヤ

ラーバは蟹田沖で1.4個体/m³、久栗坂沖で7.8個体/m³見られました(図6)。

2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温が4~11℃台に低下しています。

ユウレイボヤの例年のラーバ出現ピークは過ぎており、最も多い奥内沖でも累積ラーバ数は5.0個体/m³と少ないことから、**分散済みの籠への付着は少ないと予測されます。**

キヌマトイガイのラーバの出現が昨年と同じく早いことから、**早い時期に籠や耳吊り、マボヤ採苗器へ付着する**ものと思われます。

マボヤのラーバがまだ見られていますが、9℃以下では付着できなくなるので、**付着は西湾で終盤、東湾で終了した**と思われます。

これから春にかけてアミクサ小枝が本格的に出現し、オベリア類のクラゲが出現するものと思われます。

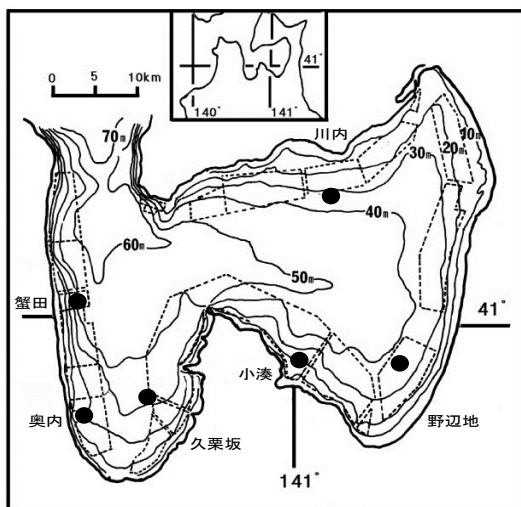


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	サラボヤ	マボヤ	キヌマトイガイ	ムラサキガイ	オベリア類	
							クラゲ	アミクサ小枝
蟹田沖	H30.12.23	0.0	0.0	1.4	2.8	69.4	0.0	0.0
久栗坂沖	H31.1.7	1.1	0.0	7.8	12.8	103.9	0.0	0.0
川内沖	H31.1.7	0.0	0.8	0.0	50.0	69.5	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

単位: 個体/m³

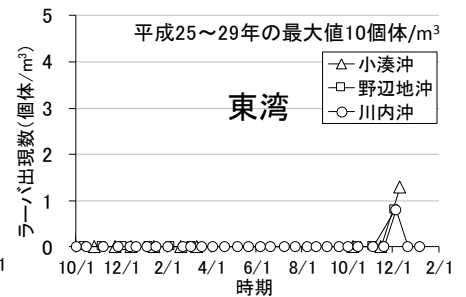
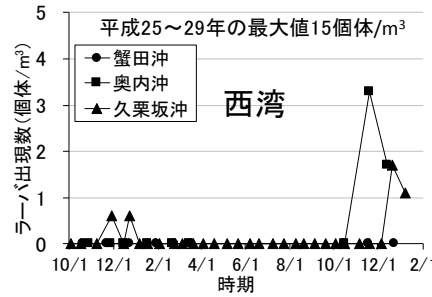


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(平成29年10月~平成31年1月)

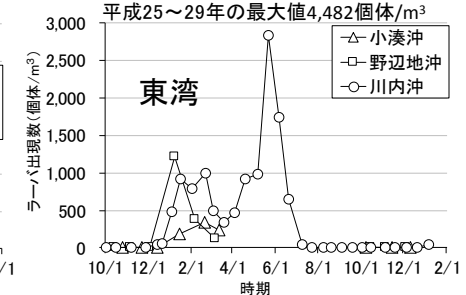
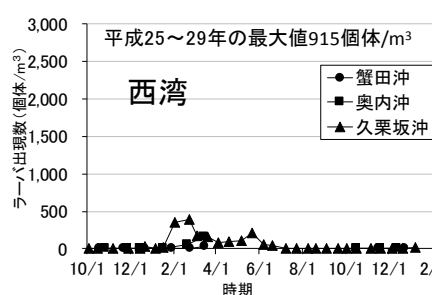


図3 キヌマトイガイラーバ出現数の推移(平成29年10月~平成31年1月)

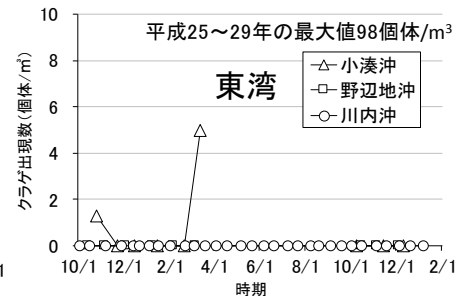
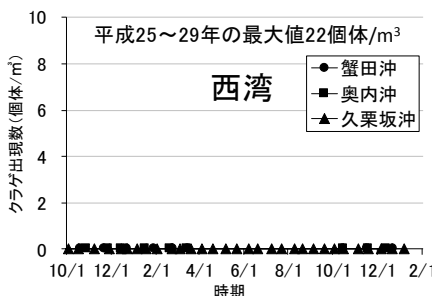


図4 オベリア類クラゲ出現数の推移(平成29年10月~平成31年1月)

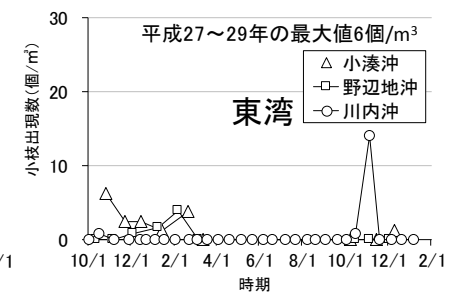
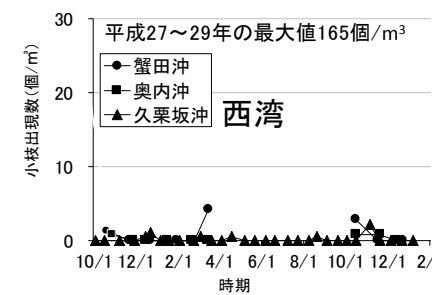


図5 アミクサ小枝出現数の推移(平成29年10月~平成31年1月)

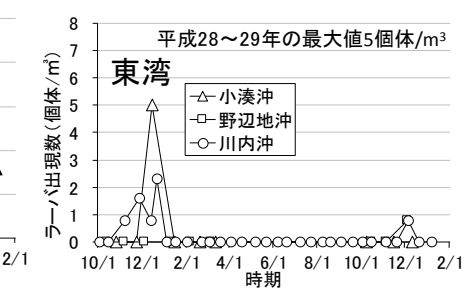
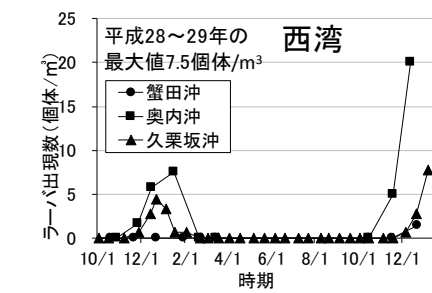


図6 マボヤラーバ出現数の推移(平成29年10月~平成31年1月)

